

2026年（令和8年）

第32回全国花のまちづくり恵庭大会

基本計画



2024年（令和6年）全国花のまちづくり小松大会

2024年（令和6年）11月

第32回全国花のまちづくり恵庭大会実行委員会

《 目 次 》

I 全国花のまちづくり地方大会について

- 1 大会の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・01
- 2 近年の地方大会の開催状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・02

II 開催の背景と意義について

- 1 開催の背景・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・03
- 2 開催の意義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・04

III 開催概要について

- 1 目的（趣旨）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・06
- 2 テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・06
- 3 開催期日・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・06
- 4 会場・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・06
- 5 主催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・06
- 6 内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・07
- 7 予算措置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・07

IV 事業推進について

- 1 全体事業スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・08
- 2 組織体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・08

1 大会の概要

1990年（平成2年）に大阪で開催された「国際花と緑の博覧会」の基本理念である“自然と人間の共生”を継承・発展させる事業として、花のまちづくりの普及・拡大を目的に翌年の1991年（平成3年）から実施している「全国花のまちづくりコンクール」（主催：花のまちづくりコンクール推進協議会※）の関連イベントとして、1994年（平成6年）5月に宮崎県宮崎市で第1回大会が開催されました。

地方大会は、花のまちづくりコンクールのPR並びに花のまちづくりを定着させるため、コンクール受賞を一過性のものにしないよう、活動の発展と継続を図ることを目的に、受賞者による事例発表、有識者による基調講演、行政や各種団体の取組事例報告などを通じ、開催地及び全国の「花のまちづくり」に携わる方々のほか、花を通じた市民活動に興味・関心のある方々などの学びの場となっております。

【恵庭市における「全国花のまちづくりコンクール」受賞歴】

回	年度	受賞者	
4	1994 (平成6年度)	最優秀賞（農林水産大臣賞）	サッポロビール株式会社 北海道工場
5	1995 (平成7年度)	最優秀賞（建設大臣賞）	恵み野花づくり愛好会
8	1998 (平成10年度)	優秀賞（都市局長賞）	漁町商店街振興組合
11	2001 (平成13年度)	最優秀賞（農林水産大臣賞）	有限会社恵庭売炭
34	2024 (令和6年度)	優秀賞（市町村部門）	恵庭市、株式会社ガーデンシティ恵庭

※ 花のまちづくりコンクール推進協議会とは、「日本花の会」（事務局）、「国際花と緑の博覧会記念協会」、「日本花普及センター」のほか、本市と花のまちづくりに関する連携協定を締結している「都市緑化機構」の4者で構成されております。

2 近年の地方大会の開催状況

1994年（平成6年）5月の第1回大会（宮崎県宮崎市）以降、2003年（平成15年）と2020年（令和2年）を除き、全国で開催されております。

北海道では、2012年（平成24年）6月に札幌市で第18回大会が開催されており、14年ぶりの開催となります。

回	年度	開催地	参加人数		
			講演会	交流会	現地見学会
22	2016 (平成28年度)	新潟県 長岡市	約1,000	97	51
23	2017 (平成29年度)	福井県 福井市	約400	約60	約140
24	2018 (平成30年度)	群馬県 中之条町	750	106	70
25	2019 (令和元年度)	富山県 南砺市	700	96	36
26	2020 (令和2年度)	中止			
27	2021 (令和3年度)	秋田県 由利本荘市	207	中止	32
28	2022 (令和4年度)	兵庫県 姫路市	709	125	59
29	2023 (令和5年度)	静岡県 浜松市	680	240	60
30	2024 (令和6年度)	石川県 小松市	537	127	43
31	2025 (令和7年度)	静岡県 牧之原市	2025年（令和7年）5月31日、6月1日 開催予定		



2024年（令和6年）全国花のまちづくり小松大会・全国先進事例発表
発表者：恵庭花のまちづくり推進会議 内倉会長

Ⅱ

開催の背景と意義について

1 開催の背景

2022年（令和4年）に「全国都市緑化北海道フェア」と「令和4年度全国都市緑化祭」が恵庭市をメイン会場として開催。期間中の来場者は市内外から約34万人、経済波及効果も約59億円と大きな成果を得るとともに、あらためて「花のまち恵庭」が全国に注目されることとなりました。

これまで同様、花の団体による活動や個人のオープンガーデンが再注目されているほか、新たに「花の拠点（はなふる）」の施設整備に対する行政の取組も注目が集まっております。

また、緑化フェアを共催した都市緑化機構から「過去の開催地が政令指定都市や県庁所在地など大都市中心であったが、恵庭市での開催をきっかけに全国でも積極的に花のまちづくりに取組んでいる自治体から、緑化フェア誘致に向けた“うごき”が全国的にみられるようになった」との意見も伺っております。

このような状況の中、「全国花のまちづくりコンクール」を主催する花のまちづくりコンクール推進協議会より、2026年（令和8年）地方大会の開催地への依頼があったところであります。

【緑化フェア開催により注目された事項】

- ①60年以上もの長きに亘る、市民主導の「花のまちづくり」について
- ②フェアのメイン会場となった「花の拠点（はなふる）」の整備手法等について
- ③本市と同規模の自治体による緑化フェア誘致について

2 開催の意義

現在、市では「全国都市緑化北海道フェア」終了後、フェアを一過性で終わらせることなく、恵庭の花のまちづくりを次世代や未来へつなげていくため、関係者からいただいた様々な提言に基づく取組を進めております。

また、これまで長年にわたって「花のまちづくり」をつないでくれた先人たちの偉業を再認識し、恵庭の花のまちづくりの歴史を次世代へ伝え、継続した取組を進めるため、毎年7月13日を「恵庭市花と緑の記念日」と定めたところであります。

緑化フェアにおいて、あらためて注目されることとなった、これまでの本市の「花のまちづくり」に関する取組のほか、花の拠点（はなふる）を中心に展開されるフェア終了後にいただいた新たな取組（中長期的な取組）を全国に発信する機会として、更には、市民が道内外の市町村における先進的な取組を学ぶ場として、「全国花のまちづくり地方大会」を恵庭市で開催することは、非常に意義のあるものと捉え、更なる「花のまちづくり」の発展に寄与できるものと考えます。

【緑化フェア開催以降の新たな取組事項】

- ①花のまちづくりに係る相談、市民がやりたいことと行政がやるべきことの調整、花のまちづくりの啓発などを行う中間支援機能を担う「(仮称) 恵庭市花と緑の文化センター」の創設。
- ②行政、専門家、市民などが協働で花のまちづくりの現状を確認し、今後の方針を決めていく機会を「恵庭花のまちづくり推進会議」の事業に加え、「花のまちづくりプラン」の更なる推進に向けた取組。
- ③花の拠点（はなふる）は緑化フェアのメイン会場であり、「花のまち恵庭」のシンボルとして、道内外への認知度が向上したことから、はなふるを拠点とした市内周遊や道内の庭園周遊など花の観交まちづくりの推進に向けた取組。

【参考・緑化フェアその後検討懇談会からの提言に関する取組状況】

◆速やかに実施を検討するもの

目標	方針案	具体的な取組案	事業概要	R5まで	R6	R7	備考
花のまちづくりの拠点がある	記念プレート等の作成	記念プレート設置	「はなふる」公園内に記念プレートを設置	実施	—	—	
		恵庭の花のまちづくりの歴史を紹介するパネルの設置（後掲）	「はなふる」センターハウス内にデジタルサイネージを設置	実施	—	—	
	はなふるの活用	はなふるを会場として花とくらし展を継続して開催する（後掲）	令和5年度より実施・継続	実施	継続	継続	
		はなふるで定期的にテーマソングがかけられている（後掲）	「はなふる」センターハウス内にて放送	実施	継続	継続	
		恵庭の花のまちづくりの歴史を紹介するパネルの設置（再掲）		—	—	—	再掲
		近隣ガーデンと連携した周遊事業の実施	周遊施設を計画検討し事業を実施	検討	実施	継続	
		市民ボランティアによる植栽活動（後掲）	市民参加花壇への植栽実施（花とくらし展にて実施）	実施	継続	継続	
市民が花と緑に親しんでいる	テーマソング活用	小中学校の授業等による実施	小中学校合唱・授業等による実施	実施準備	実施	継続	
		市役所内電話待ち受け音としての活用	市役所電話待ち受け音にテーマソングを活用	実施	—	—	
		はなふるで定期的にテーマソングがかけられている（再掲）		—	—	—	再掲
		防災無線定時放送での活用	防災無線定時放送にテーマソングを活用	実施	—	—	
	花とくらし展の拡大実施	はなふるを会場として花とくらし展を継続して開催する（再掲）		—	—	—	再掲
		サポーターズクラブで検討した内容の継続（後掲）	「緑化フェアサポーターズクラブ」の活動継続	実施	継続	継続	
		市民が参加した植栽の実施	市民参加花壇の整備	実施	継続	継続	
		ハンギングバスケット実施	ハンギングバスケットの展示	実施	継続	継続	
		期間延長	9日間の期間延長開催	実施	—	—	
	市民に花のまちを目指すことが浸透している	記念日の制定	「恵庭市花と緑記念日条例」の制定	実施			
		記念日の木の指定	「恵庭市花と緑記念日条例規則」の策定	実施			
		はなふるで定期的にテーマソングがかけられている（再掲）		—	—	—	
		小学生の副読本に掲載	小学校副読本への掲載	作成作業	実施	継続	
花と緑に詳しい人がいる	はなふるの活用	花のまちづくりに関する広報	周知啓発事業（SNSの活用など）	イベントなどの各種情報発信	実施	継続	継続
		ガーデナー講習会	はなふるガーデナーによる講習会	実施	継続	継続	
		造園関係者の学びの場		—	—	実施予定	
		次世代の学びの場		—	—	実施予定	
ボランティア活動が活発	市民ボランティアによる植栽活動（再掲）	市民ボランティアによる植栽活動（再掲）		—	—	—	再掲
		サポーターズクラブで検討した内容の継続（再掲）		—	—	—	再掲

◆中長期的な取組として検討するもの

目標	方針案	事業概要	R 5	R 6	R 7	備考
中間支援機能の検討	花のまちづくりに係る相談、市民がやりたいことと行政がやるべきことの調整、花のまちづくりの啓発などを行う中間支援機能について検討		組織・仕組みづくりの検討		試行	
モニタリングの実施	行政、専門家、市民などが協働で花のまちづくりの現状を確認し、今後の方針を決めていく機会の検討		組織・仕組みづくりの検討			
観光事業の検討	はなふるを活用した観光事業の検討（「花のまちづくりプラン」中間見直し）		事業主体・手法の検討			

Ⅲ

開催概要について

1 目的（趣旨）

- 60年以上の長きに亘り取り組んできた恵庭市の「花のまちづくり」の歴史や花の拠点（はなふる）を中心に展開する新たな活動を全国へ発信する。
- 全国における「花のまちづくり」に関する先進事例発表等を通じ、更なる「花のまちづくり」を学ぶとともに、活動の重要性を再認識し、機運の醸成を図る。
- 花の拠点（はなふる）や恵み野地区での「花」による市街地の整備状況など、施設面の取組を全国へ発信する。
- 恵庭市が誇る花のイベント「恵庭花とくらし展」を通じ、全国各地で「花のまちづくり」に取り組んでいる参加者との交流を深め、更なる活動の輪を広げる。

2 テーマ

実施計画策定時に決定

3 開催期日

2026年（令和8年）6月27日（土曜日）、28日（日曜日）の2日間
※花とくらし展との同時開催

4 会場

講演会等：恵庭市民会館 大ホール

交流会：市内公共施設若しくは飲食店

現地見学会：花の拠点（はなふる）及び恵み野地区

5 主催

恵庭市、第32回全国花のまちづくり恵庭大会実行委員会、花のまちづくりコンクール推進協議会

6 内容

今後、実行委員会において、開催目的を踏まえ具体的な内容を議論して参ります。

なお、共催者となる「花のまちづくりコンクール推進協議会」より、大会の趣旨に基づく一般的なプログラム事例（過去の開催事例）の提示受けていることから、事例をベースに議論することとなります。

《一般的なプログラム事例》

■ 1 日目（土曜日）

13:00～17:00 講演、事例発表、パネルディスカッションなどの座学

18:00～20:00 交流会（飲食）

■ 2 日目（日曜日）

09:00～12:00 現地見学会（花のまちづくりの活動拠点や公園など）

7 予算措置

大会経費については、主に恵庭市から実行委員会への負担金を財源として、実施計画策定時に事業費を算定します。

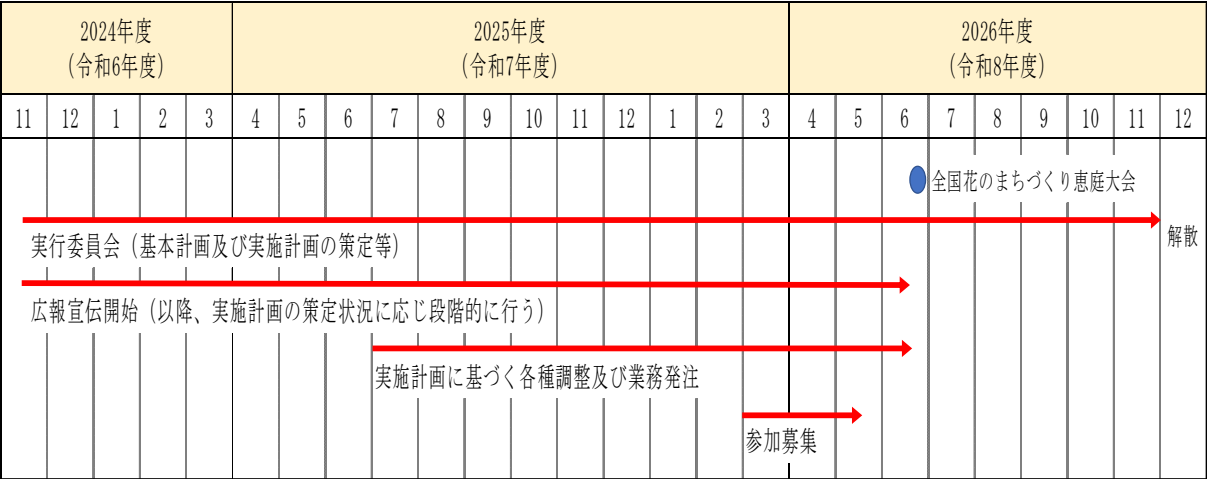
なお、過去の開催市町村の負担額については、概ね800万円程度となっております。

また、共催者の「花のまちづくりコンクール推進協議会」から50万円の補助があります。

IV

事業推進について

1 全体事業スケジュール（予定）



2 組織体制

2026年（令和8年）6月の開催に向け、実行委員会と関係機関との連携により事業を推進する。

